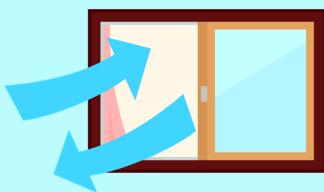
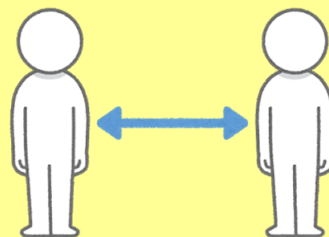


WITH CORONA

こまめに換気



適切な距離をとる



検温で
体調確認



こまめに手洗い・消毒



マスクの着用



社会福祉法人 京都光彩の会
光彩だより

令和2年夏号

◇コロナ禍での各事業所の取り組み紹介 ◇新任職員紹介

巻頭言

コロナ禍で想うこと

上村前統括施設長から法人運営のバトンを受け、今年4月より法人統括施設長に就任しました中條了と申します。まだまだおぼつかない舵取りですが、職員と力を合わせて取り組んでいく次第です。

さて、今回の光彩だよりは半年振りの発行となります。この間、コロナウイルス感染症への感染防止に向けて法人内でも様々な対策をとってきました。幸いなことに今までに利用者、職員への感染はありませんでしたが、再び感染拡大が報じられており、予断を許さない状況が続いています。

この感染症が全国的に拡がりつつあった今年3月、ある利用者が「ぼくら精神障害者がコロナにかかっても普通の病院には入院させてもらえへんかもなあ」とつぶやかれたひと言が頭から離れません。実際に精神疾患のある患者さんが感染症にかかった場合、指定病院での受け入れを断られるケースがあることが新聞でも報じられました。（二〇二〇年六月八日付朝日新聞）。これまでも重度の精神疾患のある方が一般病院での受け入れを断られる例があり、医療現場の課題となっていました。それが今回のコロナ禍で問題が露呈した形です。これは重度の精神障害者の「治療を受ける権利」はおろか「生きる権利」までもが奪われかねない事態です。私たちは行政に対してこの問題への対応策を要望していますが、具体的な対策にはつながっていません。今後も続くと思われるコロナ禍と、精神障害者の生きる権利を守るためにも声を上げていく必要があります。

社会福祉法人 京都光彩の会

統括施設長 中條了

コロナ禍での各事業所の取り組み

今年に入り、新型コロナウイルスの出現によって私たちの生活が大きく変化しつつあります。未だに出口が見えず対応を模索しているところですが、その中での事業所の取り組みをご紹介しますと思います。

緊急事態宣言が発令された4月以降、法人全体で対応指針を作成し感染防止策を行ってきました。例えば、密になりがちな法人事務所については、消毒や定期的な換気のほか、対面する机の間に防護シートを吊るし飛沫感染を避ける対策をとりました。また、4月～5月末までは法人内の横断的な集まりは控え、事業所間の連絡はインター

法人全体の取り組み



法人事務所：防護シートの設置

ネット上のグループネットワークで行う形をとりました。

食事場面も、時間帯を分ける、席の配置も対面ではなく、距離をとって横並びで座る、食事が終われば速やかに席を離れる、といった密を避ける方法をとっています。

普段ならコミュニケーションをとる立場の職員が、感染リスクを下げるために会話を控えることや距離が近いと離れるよう促すことへの抵抗はあります。感染対策は今後も続きますが、人との距離はあけても心のつながりを保つための工夫が必要です。

京都市朱雀工房

京都市朱雀工房では職員・利用者の体温チェックを必ず行っています。そして作業開始前と終了時に作業室や廊下等アルコール消毒を行っています。作業室も1日中窓を開け換気を行っています。また、密にならない工夫を行いながら、手作りでパーティーションを沢山、作成しました。

感染予防・防止を最大限行いながら、利用者の通所希望が多い為、7月以降は通常通りの利用日数・時間に行っています。

また、2月頃より布マスクを作製しています。当初はマスク不足で困っている利用者のために作っていました。が、作製メンバーが増え4月以降は外部にも販売しています。ご好評いただいております。現在は「ハートプラザKYOTO」ぶらり嵐山店様に大人用、児童用マスクを月に各20枚程度納品させて頂いています。最近ではマスクの仮置きケースも作製しており、販売数は累計100枚を超えました。事業所でも販売中です！お気軽にお尋ねください。



京都市朱雀工房：マスクの作製・販売
大人用立体マスク 1枚500円

ワークステーション かれん工房

かれん工房では感染症対策として、密を防ぐために①作業時間の変更②食事をする場所と休憩場所を分ける③席に着く際は向かい合わない・間隔を空けて座る④メンバーの通所をローテーションにする⑤在宅訓練の利用に取り組んでいます。これからの時期は暑さ対策も含め、エアコン使用時は部屋が密閉しないよう30分に1度の換気や、熱中症予防についてのレクチャーとポスターの掲示をしています。また、アルコール等必要備品の備蓄も始め、感染症の再拡大にも備えているところです。



かれん工房：換気お知らせポスターの掲示

西山高原工作所

西山高原工作所では、職員や利用者へ手指消毒や検温の徹底を進める事はもちろん、ペーパータオルや使い捨て手袋など物品を今後に備えて購入しました。また、三密を防ぐために、作業場や食堂、相談室に市販のパーティションを設置しました。座る場所や作業時間を指定させていただくなど利用者さんには不便をかけたリ、パーティションな



西山高原工作所：作業室にパーティション設置

ど物品の購入に多く出費しました。しかし、利用者さんや職員が安心して西山でお仕事や支援が出来るためには仕方ないことと思いますし、引き続き安心安全な場所や支援を提供してまいります。

グループホーム 賀陽・山ノ内・光

グループホームではこの期間、発熱等の症状を訴える方がおられました。入居者の皆さんには極力居室に経過していただくことをお願いし、対応職員を限定、万が一の場合に他のホームに持ち込まないことを第一に努めました。幸いにもPCR検査で陰性の判定があり胸をなでおろしましたが、感染の疑いがある場面ではクラスターの発生も頭をよぎりました。

現在は食事の際は換気を行いながら、対面を避け隣り合わせで座って頂いたり、時間をずらしていただいています。「先に食べ

て」とお互いに声を掛け合う姿があるなど、皆さんそれぞれに取り組まれていきます。

京都市中部障害者 地域生活支援センター 「なごやか」

前例がなく、体温計に始まり、調達できるものをまづそろえました。マスクが底をつきそうになった時は、薬局の前にも並びました。ビニールを吊るし、仕切りを設けました。

発熱等のあった方への訪問に際して、あまりにも無防備であったことから、防護服の代わりとなるものを用意しました。京都市の「介護サービス事業所施設における：発生時の対応について」を参考に、対応案を検討しました。日々緊張と動きづらさを強いられませんが、乗り切りたいと思います。

相談支援事業所 「こうさい」

感染を心配する利用者やご

家族、関係機関がおられる場合、面接や会議を中止して電話や文書で対応することがあります。実施する場合は、密にならないよう極力広い部屋で行い、同席者の数を限定したり、適度な距離をとって短時間で終えるよう心がけています。感染防止対策により様々な制約を受け、支援が停滞したり、利用者個々のニーズに応じた支援の実現が難しくなることがあり、対応を模索している状況です。

こころのふれあい 交流サロン 「なごやかサロン」

市の要請で閉所されていたサロンは、6月から再開。制限のある中、テーブルには朱雀工房の方が作った飛沫防止の衝立、四条通に面した窓には、ガチャックで設置した防虫ネットで換気も

行いながら、手探りで新しい居場所作りを目指しています。感染リスクの高い茶話会、グラスの合唱練習は中止していますが、当事者会、話し合いです。生活相談は続けています。



西山高原工作所：休憩室の飛沫感染対策



京都市朱雀工房：マスクの仮置きケース 1つ350円

新 任 職 員 紹 介

グループホーム賀陽・山ノ内・光 藤井 一幸



初めまして、藤井一幸と申します。以前は別の法人で就労継続支援の事業所で働いていましたが、今回ご縁をいただきグループホームで働かせていただいています。仕事で関わらせていただくすべての方と、共に成長できる、そんな仕事をしていきたいと思いません。今後ともよろしくお願いいたします。

グループホーム賀陽・山ノ内・光 松岡 芽以



初めまして。4月に入職しました松岡芽以と申します。この春花園大学を卒業し、グループホームで生活支援員として勤務しております。日々勉強させていただきながら、「その人らしさ」を尊重した支援ができるよう一生懸命頑張ります。どうぞよろしくお願いいたします。

利用者大募集!!

就労 移行 支援 就労 継続支援B型

京都市朱雀工房、西山高原工作所、ワークステーションかれん工房では上記の利用者様を募集しています。お気軽にご相談ください。

広報委員会 委員

中林 壮介（西山高原工作所）
中條 了（支援センター「なごやか」）
都竹 桃子（ワークステーション かれん工房）
高橋 恒明（京都市朱雀工房）
中村 美恵（支援センター「なごやか」）
松岡 芽以（グループホーム 賀陽・山ノ内・光）



編集後記

今回夏号として、各事業所のコロナ対応、事業所の取り組みについて紹介しましたが、いかがでしたでしょうか。昨年までの事を振り返ると、社会も大きく変わり、より一層日々の生活にも大変なことが多くなりました。復興が先か感染症の封じ込めが先か課題が多くあります。実際コロナの影響で下請け作業が少なくなったり生産品が売れなくなったり（委託先が休業）ため作業工賃が減ったり、感染すること不安に感じ事業所をお休みされるなど、様々な問題が各事業所に出てきました。幸い京都市より『工賃補償』

や『支え合い支援金』など、また中京区社会福祉協議会様よりマスクを寄附して頂きました。ありがとうございます。京都五山の送り火も今年はこのコロナの影響で縮小され、6個の送り火でした。残念ですが、来年はきれいな送り火が見れますように。

事業所を利用する方にとって、安心安全な場所や変わらない支援を目指し、職員一同知恵を絞って日々笑顔で接していきたいと思えます。（中林）

利用者と向き合い、寄り添い、共に考え、共に歩む そして誰もが人生の主役に



社会福祉法人 京都光彩の会

Social welfare corp KYOTO kosainokai.Inc

〒604-8854 京都市中京区壬生仙念町30番地 京都市地域リハビリテーション推進センター1F

TEL : 075-813-0501 FAX : 075-813-0520
URL : <http://kyoto-kosainokai.jp>



社会福祉法人京都光彩の会 光彩だより
発行: 京都光彩の会 広報委員会
印刷: 西山高原工作所